

## 1 「霊山」英彦山

英彦山は北岳(1192M)・中岳(1188M)・南岳(1199.6M)の三つの山頂を持ち、福岡県内では釈迦岳(1231M)に次ぐ標高を誇る。山域は福岡県と大分県の県境未確定地域となっている。山



の中腹 500m 近辺に英彦山神宮奉幣殿<sup>ほうへいでん</sup>、山頂には上宮がある。2005 年(平成 17 年)に、英彦山神宮へ続く参道沿いに、参道起点の銅の鳥居横から英彦山花公園を經由して参道終点の英彦山神宮奉幣殿へ至る全長 849m のスロープカーが完成した。

英彦山は羽黒山(山形県)・熊野大峰山(奈良県)とともに「日本三大修験山」に数えられ、山伏の坊舎跡など往時をしのぶ史跡が残る。英彦山の開山は、継体天皇<sup>けいたい</sup>の 25 年(531 年)北魏の僧善正上人<sup>ぜんしょうしやうにん</sup>の入山に始まる。さらに日田藤山村の恒雄が善正に師事して忍辱上人<sup>にんにく</sup>と称し、彦山霊仙寺の基となる草庵を開き、天台修験の別格本山として栄えていたが、以降旧境内地が英彦山神社となった。

現在、霊仙寺の法灯を受け継ぎ、新たに霊泉寺として復興して、銅鳥居<sup>かほのとりい</sup>のすぐ右側にある。神話では天照大神の子が来臨して鎮座したので「日子山」となったといわれている。平安時代の弘仁<sup>こうじん</sup>10 年(819 年)、法蓮上人<sup>ほうれん</sup>が嵯峨天皇の勅令で上洛し、日子山を「彦山」に改め、七里四方に及ぶ寺領を賜る勅願寺になる。その後、鎌倉時代までに 49 の窟が整備され山伏の修業が盛んになる。室町時代になると英彦山は神事色が強まり峰入りという修験道独特の修業が始まるようになった。英彦山より宝満山、福智山に出て修業が始まった。

戦国時代になると、各大名は血族を彦山座主に据えようと争いがおこり、特に豊後の大友宗麟との確執が大きく、多くの堂宇が焼き払われてしまった。その後、豊臣秀吉の九州平定の折に、七里四方の神領すべてを没収されてしまった。

江戸時代に入ると、小倉藩主細川忠興<sup>ただおき</sup>や佐賀藩主鍋島勝茂らの各地大名から多大な庇護を受けた。参道にある銅鳥居は寛永 14 年(1637 年)にその鍋島勝茂によって建立された青銅製の鳥居である。鳥居正面の「英彦山」の扁額は享保 14 年(1729 年)に霊元法皇によって下賜されたもので、このときに「英」の字をつけた「英彦山」と称されるようになった。

汐井川の東側に位置する英彦山大権現<sup>だいこんげん</sup>は明治元年(1868 年)神仏分離令が發布され神仏習合の英彦山から英彦山大権現は廃止された。その社は英彦山上宮として神を祀る事になったが、昭和 54 年(1979 年)に権現信仰発祥の地である玉谷溪谷滝の坊に再興された。

英彦山隠れ座敷障子ヶ岳<sup>しょうじがだけ</sup>を挟んで英彦山の奥座敷といわれる深倉峡<sup>ふかくら</sup>は奇岩が立ち並び、紅葉の名所としても知られる。その一角にある深倉園地には高さ 13m の巨大な奇岩で男魂岩<sup>おとこいわ</sup>と呼ばれ対となる女岩と向き合い、その間には川を挟んで大きなしめ縄が張られている。

## 2 大会コースのルートガイド 太字下線は主要地点

### 彦山駅から英彦山青年の家へ（1日目：引率行動）

現在は解体され跡地になった彦山駅を正面に見た状態で右へ150mほど進むと、三差路になっているのでこれを左に曲がり線路跡を横断する。車道を道なりに最初は別所河内川を右手に見ながら登っていき、2kmほど歩くと林道別所河内線の分岐別所河内<sup>こうち</sup>に到着する。右は唐ヶ谷<sup>がらがだに</sup>方面となるが直進する。

さらに2km強歩くと、県道418号線に突き当たる。左は油木ダム方面、右は別所駐車場方面でここを右に曲がり150mほど進んだところが北坂本で車道を横断し左に曲がる。途中、シカ除けのネットなどを通過して進んでいくと国道500号線に出る。右側に別所駐車場や英彦山駐在所がある国道を横断しそのまま直進する。古民家の中を進んでいくと直進は奉幣殿、左折は鷹巣原駐車場となっているので左折する。すると間もなく鷹巣原駐車場に到着し丁字路を右へ進む。

すぐに車道を横断し登山道を進むと再び車道を横断する。ここでは20mほど車道を進むので特に注意して横断する。この先は英彦山野営場やススキの草原（現在は刈り取られている）となっている鷹巣原高原、バードライン分岐を経て、英彦山青年の家に至る。



駅舎が取壊された彦山駅



野営場下の車道横断

### 英彦山青年の家から汐井川駐車場（2日目：引率行動）

英彦山青年の家から左が豊前坊、右が鷹巣原高原の状態です。鷹巣原駐車場までは昨日と同様にバードライン分岐、ススキの草原である鷹巣原高原、英彦山野営場を通過し鷹巣原駐車場へと向かう。昨日の丁字路を今回は左の奉幣殿へ進む。鷹巣高原ホテルを通過するとミツマタの群生やヤブツバキが見られる。車道を横断し左の尾根側に向かって進んでいく。しばらく登山道を進むと英彦山修験道館と呼ばれる大きな建物が現れる。ここを通過するとすぐに奉幣殿に到着する。



車道横断左の尾根道方面へ

ここには天ノ水分神と呼ばれる湧水や英彦山ヒメシヤラ・

シャクナゲ、また、スロープカーの終点でもあり一般の参拝者も多い。左側の階段を登り直進が英彦山上宮、右折が鬼杉の分岐を右に進む。この区間はスギの植林地帯である。

20分ほど進むと**三呼峠分岐**となり右が玉屋神社、左が<sup>おおみなみ</sup>大南神社方面でどちらも鬼杉へたどり着くが時間が短い左へ進む。アップダウン数回繰り返しながら世界最大の**梵字岩分岐**や四王寺の**滝分岐**、<sup>ころも</sup>衣が池などを通過していく。しばらく進むと大南神社手前に分岐があり、看板には左が上宮・南岳、右が大南神社・鬼杉となっており、ここもどちらを通っても鬼杉にたどり着くが停滞を避けるため鎖場がない左のルートを通る。左に進むとすぐに、左は南岳、右は鬼杉の分岐となるので右の鬼杉の方へくだっていく。この辺りは倒木があり道がわかりにくいので目印を確認しながら、また、足元に注意しながら進むと**鬼杉**に到着する。

鬼杉から右が玉屋神社方面、直進が町道大南線となるので直進する。沢沿いを進んでいくと途中渡渉点がある。通常は特に問題はないが大雨の後は増水している可能性がある。そのままくたっていくと大南線に合流する。

大南線は右が大権現、左が岳滅鬼登山口となるので左へ進む。大南線を進んでいくと溪谷に一枚岩が見られるので景色を楽しみながら進んで欲しい。途中道路が崩れ工事中的場所があるのでその部分は気を付けて進んでいく。また、スギの植林に混じってキブシやモミの木も見られる。さらに木の隙間から時折英彦山南岳山頂を確認することができる。

しばらく歩くと左に岳滅鬼峠方面、直進が深倉峡、右が大権現へ向かう**深倉分岐**に到着する。ここからはメインザックをデポしてサブザック行動となる。また、岳滅鬼山からピストンした後の下山は大権現方面へと進むが今からは左の岳滅鬼峠へと進む。

ここから登っていくと小屋が現れるのですぐ横を通過して左側へと進む。登山道を注意して進むと**岳滅鬼山登山口**の看板がありここから右側の登山道へと進む。直進も登山道であるが谷の中を通る道となりスギの倒木が多く歩きにくい。20分ほど登ると**岳滅鬼峠**に到着する。



大南神社手前の分岐点を左



鬼杉—大南線間の渡渉点



大南線工事現場



岳滅鬼山登山口看板

ここから左は石楠花の頭、右は岳滅鬼山方面となり右へ進む。ここから尾根ルートはブナの自然林やシャクナゲの群生のなか進んでいく。途中三か所ロープやハシゴが現れるので浮石や落石、踏み外しに注意して進んでいく。最初はハシゴが設置されている。ここは長い距離ではないので前の人がハシゴを通過したのを確認して登り始めてほしい。



2 番目の難所 長いロープ

2 番目は長いロープになっている。ロープを使わなくても足場を確保しながら登ることができる。急にロープをもって体重をかけると他の人に危険が及ぼす可能性があるためロープを持つ場合は周りに声をかけて欲しい。最後の難所はロープとハシゴの組み合わせになっている。上のハシゴで停滞すると下のロープの途中で人が待機になるので上の状況をよく見ながら確認して進む。ハシゴを通過した後も石が崩れやすくなっているため注意しながら進む。



3 番目の難所 ロープとハシゴ

ここを通過するとシャクナゲの群生となり**岳滅鬼岳**に到着する。女子隊はここから引き返す。山頂を通過し下っていくと目の前に岳滅鬼山が見える。



ススキの草原を登りきると**岳滅鬼山**に到着する。北に福智山、南にくじゅう、東に由布岳と展望が開けている。山頂をそのまま直進すると宝珠山を経て砺石峠へと続くが今回はここでまで引き返す。**深倉分岐**までは登ってきた道を同じように通るが慎重に進んでいく。岳滅鬼登山口からは再びメインザック行動となり、大権現方面へくだっていく。基本的に谷を歩いていくので迷うことはないが目印のテープもあるので確認しながら進む。大南線に合流する直前で汐井川を渡るが橋が崩壊しているので橋の左側を渡渉していく。大南線の右は先程の深倉分岐、左は大権現方面となるので左へ進む。

崩壊した橋の手前にある

4 9 総体の柱

しばらく進むと植林がひらけてきて車両通行止めのゲートを超えると**大権現入口**に到着する。秋にはイロハモミジの紅葉が見事である。ここからは車も通る道となるので注意して進むと**汐井川駐車場**に到着する。